

マルクスと共産主義の本質 & トランプ登場の意義

担当:石田 2024 年 10 月 27 日

「MARX&SATAN」by Richard Wurmbrand ルーマニア共産主義刑務所で 14 年間拷問と迫害に遭った米国福音派牧師。ニクソンらの要請で釈放、「迫害された者の声」設立。

マルクスの通説「非常に人情味のある、慈悲深い人だった」は間違い。宗教嫌いが本質。

「私はすべてを支配している唯一の者に、私自身が復讐すること願う」M の詩集より。詩集作成時、M は社会主義に傾倒する考えなどなかった。社会主義を論難していた。宗教に打撃を与えることが最初の目的だった。次第に創造主を認めない、とさえ主張しだした。

パリ革命時「我々の敵は神、神を忌み嫌うことは智慧の始まり」との思想が基にあった。

共産主義はサタン(元天使長ルシフェル、神に嫉妬、反抗)を神とする為の便法だった。

M は著書で、革命を扇動する目的は世界を破滅させること、それを楽しむこと、と述べ、「共産党宣言」の中では「自分の望みはすべての宗教を廃止することだ」と書いている。

レーニンは死の床で「私は大きな間違いを犯した。もう後戻りするには遅すぎる。自国ロシアを救うにはアッシジの聖フランチェスコのような人が 10 人くらい必要だ」と懺悔。

スターリンは「宗教が最も凶暴な敵だ、全ての教派の両親から子供を隔離せよ」と指令。

毛沢東の言、「八歳のころから、孔子を嫌っていた。村の孔子廟を破壊したかった」

ソ連の新聞が漏らした「我々は神の信仰者を強奪する為に神と戦っている」は共産思想が無神論ではなく「神に対する凄まじい憎悪」にあることを示す。ミカエルに敗れた墮天使

共産主義者サタニストの悪魔儀式(黒ミサ)には幼児が生けにされている。黒ミサはキリスト教以前から存在している。モラルの破壊、全ての悪行を許し地上の混乱を狙う。

開放の神学:「我々は天の沈黙に飽き飽きした。だから、後はただ暴力を行使するだけだ」

共産主義が犯した以上の犯罪はない。マルクスにとっては社会主義は見せかけだ、彼は人類を永遠の破滅に導く極悪非道の計画が願い、神を憎んでいた。民衆の幸福など願っていない。年老いてからもサタン礼拝者だった。パチカンの中でサタン礼拝が行われている。

トランプ登場の意義: Trump も Putin もサタニズム・黒ミサの件を知っている。Trump は、WH 退出時に WH 地下空間で行われていた実態を見て涙を流していた。Putin はウクライナ特別軍事行動で、キエフまで進攻した時にウクライナ国内での実態を把握、Trump と“泥沼掃除”を協議している。「民主党 vs 共和党の選挙戦じゃない、共産主義と自由の選択」と言った背後の意味は、各国の上層部に蔓延る悪魔崇拝を排除することではないのか?

ハリスは集会で、聴衆のイエスこそ主の声に対し「あなたは間違った集会に来ている」と応じた。**DS とは墮天使サタンの勢力?**

ウキペディアより: 黒ミサは、ローマ・カトリック教会に反発するサタン崇拝者の儀式。神を冒瀆することを旨とした儀式で、カトリック教会のミサと正反対のを行う。中世ヨーロッパでは異教徒を批判する際に彼らは黒ミサの儀式を行い広めるとして攻撃した。17~18 世紀の英、仏、伊の貴族や知識階級で盛んに行われた。例えばフランス王ルイ 14 世の寵姫であった侯爵夫人は黒ミサに使用するために 1500 人の嬰兒を誘拐、殺害した件で告訴されている。ボヘミアン・グローブで、潜入監視報告(アレックス・ジョーンズ)あり。



悪打倒を協力します。今ボールは貴方の手にある。